



調査部主催講演会
国際情勢を身につけよう

中国、香港、台湾の行方

東京外国語大学教授 中嶋嶺雄

91年11月25日、本店15階ホールにおいて、講演会を開催しました。
当日、参加できなかった方々に内容を抜粋してお届け致します。

*** 講師紹介 ***

1936年 松本生まれ
1960年 東京外国語大学卒業
1965年 東京大学大学院 国際関係論課程終了
現在 東京外国語大学教授 (国際関係論・現代中国学)、同大 海外事情研究所所長、社会学博士。
[主要著書]「現代中国論」、「中ソ対立と現代」、「北京烈烈」、「香港、移りゆく都市国家」、「中国の悲劇」、「中国の実験」(訳書)

代は今や過去のものになりつつある」と痛感しています。われわれはもっと広い国際認識の立場から、中国についても、香港、台湾、あるいは東南アジアの華人社会、そこにはシンガポールを入れてもいいかと思いますが、そういう中国的世界として物事を見ることが、これからは非常に重要になってくると考えていました。

その矢先、ソウルで開かれたアジア太平洋経済協力閣僚会議、いわゆる APEC 第3回会議は、歴史始まって以来、初めて中国と香港、台湾という3つの中国を平等の資格で迎え入れました。これはアジアの歴史にとっても画期的なことではないかと思います。

われわれは、中国という年北京政府の中国大陸だけを中国と考え過ぎてしまう、ここに私たちの一番身近なアジアに対する認識の盲点がありはしないかと思います。

中国とは

中国といいますと、私はこのところ「中国大陸、中華人民共和国だけをもって中国と語る時

趙紫陽は復活するか

まず中国ですが、中国では第8期中央委員会

総会が行われ、天安門事件で失脚し、最近復活した胡啓立（かつての政治局常務委員）がスピーチしたというようなニュースがありました。胡啓立という人材は、年柄からいっても中国のゴルバチョフになるべき人でした。彼は北京大学卒業のエリートで、長い間共産主義青年団のリーダーをやり、胡耀邦にかわいがられて、胡耀邦時代から頭角を現してきていました。ところが、彼は2年半前の天安門事件で失脚しました。趙紫陽ほど重い罪状ではなかったのに、最近復活したわけです。

胡啓立が中央委員会総会で演説をするということは、彼の政治的な経歴からすると当然と言えますが、中国国内にはソ連の政変以来、ものすごく保守的な、イデオロギー一点張りの強硬派が頭角を現していました。ですから、それに対してある種の巻き返しが行われていると見る事ができると思います。これがどこまでいか、趙紫陽の復活までいくかどうか。趙紫陽の復活ということになると、天安門事件の時に手を汚した李鵬、あるいは鄧小平の責任も問われることになりかねません。

いずれにしても、中国は、今、鄧小平が87歳になりましたから、言葉は悪いですが、鄧小平の「死に待ち」というような状況で、政治的には不透明な情勢だと言っていいでしょう。それでいながら、今言ったように保守派の論議が強くなったと思うと、それよりもっと柔らかい改革派の論調が強くなったり、そういうことをこのところ繰り返しています。

ソ連の8月革命

そもそも中国は、今回のソ連の政変をどう見ていたかということですが、中国は、8人組のクーデターにもものすごく期待していました。一説によると、事前に8人組から情報が流れていた、ということも言われています。中国にとってゴルバチョフは決して気に入ったパートナーではありませんでした。

なぜならば、2年半前ゴルバチョフの訪中によって、学生たちがさらに声を大にして民主化要求を拡大していったからです。つまり、ゴルバチョフ訪中なかりせば民主化運動のあんな量的拡大はありませんでした。そのため、鄧小平

にとってはゴルバチョフという存在そのものが気に食わなかったわけです。ましてやエリツィンのように、ああいう急進改革派なる者は裏切り者もいいところである、とエリツィンなどを痛罵していました。それだけに、ソ連で政変が起こり、本当に中国は喜んだようです。

さて、8人組のクーデターは三日天下に終わりました。それだけに中国の指導者にとっても非常に危機感が強まりました。当面、断固として民主化運動の再発を防げ、学生に注意せよ、外国人に要注意、という非常に強い通達を出しています。そこへもってきて、人民日報などは万里の長城を鋼鉄で築け、ということを行っているのです。

ソ連の政変が世界に大きな影響を与え、共産党が解体したという中でわれわれが考えなければいけないことの1つに、今までは社会主義の国あるいはかつて鉄のカーテンと言われたソ連、今の中国、そういうところでは国内で何でもできた。力を持っている者が、われわれから見れば非合理的な方式によって、民主化運動なり、いろいろな政治的要求を押さえつけることができた。しかし、それはやむを得ないと思われたことが、今やそうではなくなったということが挙げられます。

ソ連でさえも、クーデターをやろうとした人たちは、国際世論に押し流されていった、と言っていいでしょう。あるいは、プッシュ大統領が発したメッセージがそのままソ連に通じて、ゴルバチョフもそれを聞いていた、そして市民たちは沸き上がっていった、こういう新しい時代を感じさせたと思うんです。

このことは、中国には人権などなくていい、西側諸国は散々中国を侵略したじゃないか。かつて列強諸国や日本はそういう役割を演じたのだから、あなた方にそんなことを言う資格はないという中国の論理が、いかに今の国際的な潮流とかけ離れているかを示したと言わざるを得ません。

もう1つは、民族問題というこれまでにない問題が吹き荒れて、收拾するすべがないということです。とてもではないけれども、これから大変だということが一方で出てきたわけです。

しかしながら、その中で1つ確認できること

は、ペレストロイカやグラスノスチが順調に
っていないことに対する市民の不満も非常に高
い。そういうことを通じて、ソ連の国民あるい
はモスクワ、レニングラードの市民の意識がも
のすごく変わったということです。これは、ゴ
ルバチョフの政策がつまりげばつまりくほど、
それに対する批判を通じて新しい政治的な潮流
が大きくなってきたということです。これは非
常に注目すべきことではないでしょうか。

民族問題はソ連だけではありません。例えば
ユーゴを見ていると、なぜクロアチアという国
があんなに連邦軍に砲撃されなければいけない
のか。

冷戦の崩壊と共産党の解体、つまり社会主義
の敗北が次の新しい問題を起こしていると言っ
ていいと思います。

中国の人口問題

アフリカにしても、最近のラテンアメリカに
しても、社会主義になれば何とかなるとい
う希望があったうちはいいけれども、それが駄目
になってしまうと、ラテンアメリカだと、従属理
論、新しい協同組合主義なんかがあって、それ
でうまくいく。そういうことに取り憑かれた人
たちもいますが、すべてがうまくはいかない。
ものすごい貧困と格差だけが残っているわけ
です。そうすると救いのない世界、第三世界とい
うより第四世界、第三世界から落ち込んでい
ってしまう世界をどうしようにわれわれは考え
ていくかという問題が出てきます。

中国もひょっとすると第三世界から工業化さ
れた先進国になれるどころか、そういう方向に
なっていく可能性だってなきにしもあらずです。
そうすると、人口だけは多くて、公害はまき散
らすし、どうしようもないということになっ
ていくでしょう。中国について人口政策をいくら
強調しても、し過ぎることはありません。現在、
中国の人口を私は13億と見ています。2年前の
2月に発表された国家統計局の最新の数字は11
億7,000万人です。今までの経験から、国家統計
局の数字が発表されるころ、実勢はそれをかな
り上回っていると見ていいと思います。このま
まいくと、今世紀末には15億を超えるでしょう。
そして、21世紀に20億ということになりかねな

い。本当に深刻な問題だと思います。

中国は広いからというけれども、人間が住め
る居住空間は日本列島の3.7倍、しかも農業人口
が依然として80%ですから、多くの部分は畑な
どにとっておかなければいけない。都市および
その周辺は人、人、人が折り重なり、押し合い
へし合いしているのです。そういう中国が今後
どういう世界になっていくかは、単に中国だけ
の問題ではなくて、全人類的な課題になると言
えます。

結論を言うと、中国自身、若者も満足して自
分の将来をかけられる国になってもらわなけれ
ば、いくら外から援助しても、そんなものは焼
け石に水なのです。

現在の中国の政策

中国が当面掲げている大きな政策目標は、こ
の間までは改革、開放だったんですが、今やそ
れだけではなくて、共産主義、社会主義の崩壊
をいかに食い止めるか、ということになりつつ
あります。

和平演変は、大きく分けて2つの要素からな
っています。まず第1はソ連、東欧の波の防止。
第2番目は南の風に注意。南の風とは何か。香
港、台湾から吹いてくる風です。ソ連、東欧の
波は何とか防止することができるかもしれませんが、
問題は南の風だと思います。改革、開放
を続けるというかぎり、香港や台湾からの影響
が入ってくることはやむを得ません。それは広
く西側諸国、日本やアメリカからの影響といっ
てもいいと思います。

そこで、この矛盾した状況をいつ中国が調整
することができるのか。改革、開放とは一体何
なのか。改革というのは、分かりやすくかみ砕
いて言えば、お金をもうけてもいいということ
です。今まで金もうけは絶対許されなかった。
それこそ資本主義の芽生えであると拒否されて
いた革命国家において、それではどうしようも
なくなって、お金をもうけていいと上が言い出
した途端に、中国社会は大きく変わっていきま
した。

1つは拝金主義の風潮、お金、お金と急速に
金銭づいたことです。マックス・ウェーバーの
高邁な議論を引くまでもなく、中国人はもとも

と勘定高い。確かにいろいろのデータがそれを示しています。商売がうまい。ですから、中国と貿易をやってもうけようと日本の企業が考えたとしたら、よほど日本の企業が上手か、あるいは中国について十分認識がないと、なかなかもうけさせてくれません。

お金をもうけていいということを言った途端に、広東省辺りは山の中まで変わっていったとっていいでしょう。山の中が変わったというのは、今までは朝早く起きて一生懸命働いても収入は同じだから、人民公社の生産隊の集団労働をやっていればよかった。ところが、朝早く起きて行って、人の起きないうちに山の中でクリを拾う、いいクリを選んで市場に出す。そうするとたくさん自分の実入りがあるから。また、つるを取ってきて、それをうまく加工して付加価値をつけて自由市場に出す。あるいは、もっといいものは香港の民営市場に出す、ということまでいくわけです。そういうことが可能になったものですから、急に活気づいてきました。これまで共産党の政策を上から押しつけても動かなかった農民に自主性が出てきたのです。

広東の企業は国営企業が大部分でしたが、小さいのは個人商店から始まって民間の企業、あるいは深圳経済特別区はすぐ近くですから、それとの関連で合併企業ができて、いろいろな創意工夫をやるわけです。その中で起業家精神が出てきました。これは今までの中国になかった、社会主義の国にはなかったことです。これが出てきた途端に経済が活気づく。従来、中国人はそういうものを持っていたけれども、社会主義制度によって干からびたものにされていたのが、もう一遍よみがえってきた感じです。

香港に対するあこがれ

広東の人たちは、もともと自分たちと同じ広東人でありながら、香港へ逃げていった連中とは交渉するのも汚らしい、あるいは香港の人たちは資本主義の汚辱の中に生きていて、人格的にも卑しむべき集団、というふうに思っていたと思います。日本やアメリカへ行ってみると違うというのが分かるけれども、改革と開放の10年間のうちに香港と接してみると、その香港は自分たちのところから出ていった者とは思え

ないぐらい急速に国際化し、情報化し、ビジネスのノウハウ、企業活動が活況を呈し、世界のファッションの最先端が集まっているとか、すべてに見違えて、広東の人たちはものすごく驚きました。

この驚きはやがて香港に対するあこがれに変わっていきます。同時に、香港の情報がどんどん入ってくる。中国では、ソ連の政変が失敗した後、ソ連のことを十分伝えませんでした。北京ではそうだけれども、広東ではテレビのスイッチをひねれば香港のテレビが毎日のように入るわけですから、頭隠してしり隠さずみたいなもので、中国では、ソ連で何が起こったのか、みんな知っています。そうであるがゆえに、「中国の8人組を打倒せよ」というスローガンが国慶節であちこちに出たのです。

中国共産党の今後

これから注目すべきことは、香港返還まで今の中国共産党の一元体制がもつかどうかということです。予測はそのとおりにいかないかもしれませんが、それは1つの見どころだと思います。ソ連も東欧もこんなに崩れました。中国は学生や知識人が叫んだだけという議論も一部ありますが、私はそうは思いません。あとき趙紫陽が李鵬や鄧小平の命運を知っていたなら、彼は彼らを軟禁できたわけです。追い詰められた趙紫陽は、ゴルバチョフ訪中によってわーっと広がったデモの中で勢いを盛り返して、あの広場に降りていき、「自分がここへ来るのが遅過ぎた」と言って涙ぐみましたが、その瞬間、党の最高指導者と、民主化を求めて最後は銃撃された学生たちが一緒になったのです。ですから、場合によれば中国も東欧やソ連に先駆けて、共産党体制が瓦解していったかもしれないと思うのです。そうならなかったけれども、その可能性は十分あるし、2度3度そういうことが起こる可能性も考えておいていいのではないのでしょうか。

ゴルバチョフだってエリツインだって、ついこの間まではばりばりの共産主義者でした。特にエリツインは共産主義青年団のリーダーだったくらいです。中国においても第2の胡耀邦、第2の趙紫陽が出ないという保証はありません。

今のリーダーの中でも、天安門事件にかかわった人とかかわらなかった人の間にやがていろいろな亀裂が出てくるでしょう。李鵬とか鄧小平とか楊尚昆とか、みんな天安門事件で手を汚しています。江沢民は上海にいたとはいえ、半分その気配もあります。それに対して、全く遠いところにいた上海市長の朱鎔基とか李瑞環元天津市長、この間日本にきた鄒家華、あるいはその可能性があるとしたら、この間まで広東で頑張っていた葉選平など、いずれも第2、第3の胡耀邦、趙紫陽になり得るような人材がいます。

天安門事件が深刻であったのは、単に民主化運動が上から押さえられたということだけでなく、それ自体も大変深刻でしたが、党内トップの権力闘争と民主化運動が結びついたところにあるのです。

香港の現状

さて、最近の香港はもう1つ重要な問題が出てきました。9月下旬、香港の立法評議会の選挙がありました。香港は今まで政治がなかったところで、開闢以来初めて選挙が行われました。定員60人の立法評議会ですが、その大部分は総督府の役人、あるいは総督が任命する人となるのですが、18人だけ窓を民意に対して開けたわけです。その選挙では18人中、15人が香港民主同盟、あと2人は民主派、中国派はわずか1人でした。圧倒的に民主派が勝利しました。この人たちは2年半前には「今日の北京、明日の香港」と言って、香港始まって以来、3人に1人という200万のデモを組織した人たちです。

香港経済は活況を呈しているにもかかわらず、期待される人材と思われる人たちはアメリカ、カナダ、オーストラリアへ国籍を移したり、あるいは転職していきます。けれども、オーストラリア、カナダは香港からの移民を導入する措置をまだ採っていますが、最近アメリカのサンフランシスコ、ロサンゼルス、ベイエリアなども大分アジア系が多くなってきて、返還までにあと100万出ていくということですが、そう簡単にあと100万を受け入れられる余地はとてありません。

そこで、彼らは香港自体をもう少し民意に基づいたものにしていこうという形で、今後運動

してくると思います。彼らには5年8カ月しか時間はありませんが、世界の潮流は民意を重んずる。香港の返還協定は、香港の人たちの民意を一度も問うことなく、彼らの頭を超えてサッチャーと鄧小平で締結した返還協定ですから、このこと自体も問われていくかもしれません。ここにもまだまだ流動的な状況があります。同時に経済の上では香港が中国を大きく変えつつあるという気がします。

李登輝総統

台湾も最近、経済は非常に順調です。政治的、社会的にもかなりいい線を行っています。特に経済だけではなく、政治改革、民主化をやるということにおいては、今の李登輝総統は大変な人材だと思います。

この間ある新聞で「アジアの政治家でだれが一番優秀と思うか」という記者投票をやったら、李登輝がトップでした。彼は日本の京都大学に学び、西田哲学などについて語らせれば大学教授並みの見識を持っていますし、ゲーテについても大変な学識を持っています。彼が若いころコーネル大学に出した論文は全米学位論文賞第1位に輝きました。

「台湾農工間の資本移動」、バナナや砂糖をつくっていた台湾から今みたいにバイオ製品とかハイテク産業というところまで発展していくきっかけをつくるキャピタルフローの問題を研究していました。そういう人材が普通の農民の中から出てきたわけです。

李登輝は、心の中は台湾人としてのアイデンティティーを持っているけれども、自ら中華民國の総統ということになると、そう軽々しく動けないどころか、何とかして中国世界全体をもっとよくしたいという使命感に立脚しているといっているでしょう。

台湾をよくする中で李登輝がやらなければいけない仕事は、まず政治改革です。それは徐々に取り組んできています。今年の5月1日を期して中国を敵視する条項を改める。それは同時に、総統の選出母体である国民大会とか、台湾は五院制ですが、立法機関である立法院とか、そういうところの制度を変えるということで、これをどうしようふにやるかは非常に難しい問

題だと思えます。中華民国という枠の中で選出されている古い議員たちは長い間民意を代表していないわけですから、国民党の長老の人たちを政治の世界から一掃する、こういうことをうまくやってきています。さらに、来年3月までに憲政改革を徹底的にやるでしょう。

李登輝は、そういう意味で出所進退がはつきりしていますから、自分に有利になるということのために政治改革をやるものではありません。あるいは、よくあるように、自分の選挙区情勢に有利なように政治改革をやるというちっぽけなことではなくて、その点では大変大きなスケールを持っていて、そういうことを今やろうとっているのです。

同時に、こういう状況の中で、野党の民進党が台湾で活躍し始めました。従来だったら国民党の1党独裁だったのですが、蔣経国時代から戒厳令が撤廃されたり、李登輝はそれを受けて、徐々に複数政党制にもっていったのです。民主進歩党は、つい先だって綱領の中に台湾独立ということを入れました。

新しい民族問題

確かに今の世界の潮流は、先程の民族問題もそうですが、新しい民族問題なのです。台湾の人たちは、豊かになればなるほど、漢民族としての意識、あるいは中国人という意識をだんだん持たなくなります。彼らは台湾人だという意識。それはソ連において、74年間かかってソ連人という意識を持つソ連国民はほとんど育たなかったのと同じです。結局、エリツインのロシアだって、彼らはロシア人です。ウクライナの人たちはウクライナ人、グルジアの人たちはグルジア人。

アイデンティティーはなかなか難しいですが、中国の場合もこれからそういう問題に直面すると思います。いずれ分権化して、香港と広東が一緒になる、あるいは香港は香港で香港共和国、広東は広東で広東共和国ぐらいになって、緩やかな連邦体制をとっていくのが一番いいと思います。台湾の場合に限って言うと、国民党の人を含めて、最近、台湾の人たちのアイデンティティーが強くなってきています。それは香港の人たちが香港人という新しいアイデンティティ

ーを確立しつつあるのと同じです。こういう状況になればなるほど、台湾独立は非常にデリケートなテーマです。

国民投票をやって、台湾の民意みんなが独立となったら独立だということだと思えます。もちろん、その可能性はあると思います。みんながそうなったら、国連だって黙ってられないのではないのでしょうか。1つの地域が合法的、民主的手続きで投票をやって、その投票にも不正がない。それで独立といったらどうでしょうか。これからはだんだんそういうふうになる時代です。これは中国にとっては非常に気になるところで、中国は「そんなことやったら武力開放だ」といって牽制しています。

ただ、李登輝を含めて台湾の良識的な人たちは、今もう既に独立しているじゃないか、ここであえて中国を刺激するようなことをするより、あと数年間様子を見ようじゃないか。少なくとも香港返還がどういう形で行われるか。むしろ瀬踏みになっているのは大陸中国のほうじゃないか。われわれは今余裕があるのだから、もうちょっとそれを見た上でこの問題の結論を出そうじゃないかというのが大方ですから、台湾で独立を問うたところで、私は、20%から30%ぐらいが台湾即独立に同調するだけだと思います。

ということになると、独立という意見がこのぐらいはあったほうが台湾の政治にある種の緊張をもたらして、よりいい政治にしていくでしょうし、国民党にとっては大陸とのバーゲニングポジションが強くなるんじゃないかと思っています。もし台湾が武力攻撃ということになったら、日本郵船としても台湾海峡の安全確保が問題になって、大体のタンカーはあそこを通過してくるでしょうから、湾岸危機どころの騒ぎではありません。

また、台湾が独立するということになると、そのもたらすインパクトは、バルト三国なんかの比ではありません。バルト三国は、「ああそうですか、第2次世界大戦にスターリンが強引に併合したところだからよかったですね」で済みますが、台湾の問題は日本にとっても、3番目の貿易相手国になりつつあるわけですから、非常に重要なインパクトを持つだけに、将来が注目されます。



ゆうせん恋愛白書

92年版

製菓業界のキャンペーンと知りつつも、バレンタインデーが近づくと、ソワソワ、ドキドキの人も多いのでは……？ 一昨年に続き、「ゆうせん恋愛白書パートII」を企画しました。今年、ハッピーになりたいあなたに贈ります。

アンケートは20代、30代の若手社員を中心に配布しました。男性28人、女性72人、合計100人の方から回答をいただきました。

Q1 昨年のバレンタインデーに贈った／もらったチョコレートは何個でしたか？

男性(もらった数)	女性(贈った数)
0コ 1人	3人
1～5コ 14人	23人
6～10コ 9人	25人
11～15コ 2人	7人
16コ以上 2人 (最高21コ)	11人
わからない	3人

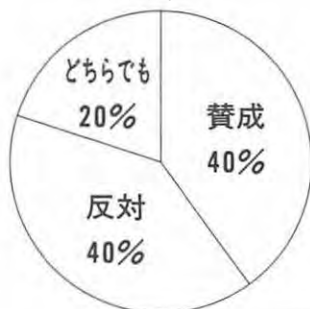
●「女性にとってバレンタインデーのチョコレートはお中元とかお歳暮がわりよ！」

星の数ほど贈ったという女性もいました。

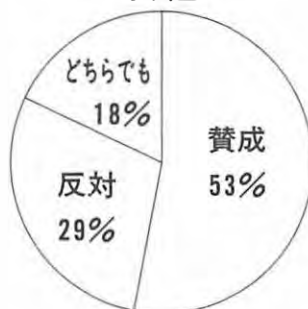
「本命チョコあり!!」と答えた人は男性も女性もほぼ **50%** です。

Q2 あなたはバレンタインデー賛成派？ 反対派？

男性



女性



社内で結ばれたご夫婦にうかがいます。



とっても優しいだんなさま Qさん

Q1 月並みですが、あなたと彼女の“運命”の出会いは何時？

神のお導きでしょう。

Q2 彼女のこんなしぐさにグッときました。

鏡に向かって帽子を選んでいる時の顔はかわいかった(そんなのにだまされてはいけませんよ、皆さん)。

Q3 十人十色とは思いますが、あなたの理想のバレンタイン・デーの過ごし方とは？

しかるべきことは前か後の週末に済ませ、当日は心静かに一日を過ごすのが正しい在り方だと思う。